

平成7年秋季特別展

邪馬台国への海の道

— 壹岐・対馬の弥生文化 —

10月7日(土)～11月26日(日)

主催／大阪府立弥生文化博物館
読売新聞大阪本社・読売テレビ

■考古学セミナー ●午後2時～4時(1時受付)1階ホール

第1回/10月22日(日)

●副島 和明

原の辻遺跡の発掘調査

第2回/11月4日(土)

●西谷 正

弥生時代の日・韓関係と壹岐・対馬

第3回/11月19日(日)

●崔 吉城

韓国のシャーマニズム

第4回/11月23日(木・祝)

●館長(金関 恕)と館員
「壹岐・対馬・邪馬台国を語る」

●本館学芸員による展示解説/毎週日曜日と祝日 ●午前11時～ 特別展示室

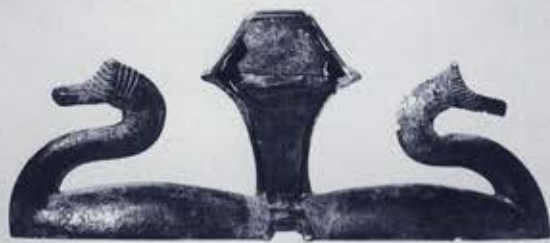


大阪府立弥生文化博物館

●開館時間:午前10時～午後5時(入館は4時30分まで) ●休館日:毎週日曜日(祝日はその翌日)

◆入館料:個人＝一般600円・高大生400円・小中生・85歳以上は無料 団体＝一般480円・高大生320円(団体は20名以上)

■所在地:〒594 和泉市池上町443 ☎0725-46-2182 ■交通:JR阪和線天王寺駅より徒歩25分[信太山]駅下車徒歩7分、南海本線[松ノ浜]駅下車徒歩20分



●動物をかたどった剣の飾り金具—中央が鈴になっている
(対馬・シゲノダン遺跡 重要文化財)

展示構成

第1部 邪馬台国への海の道

邪馬台国にいたる海上交通の要衝にあった壹岐国、対馬国を『魏志倭人伝』の記事から紹介します。

第2部 対馬のクニ

入り江を望む高台に築かれた墓とそこに副葬された品物などから、朝鮮半島と盛んに交渉を行なった弥生時代の海人の姿を復原します。

第3部 境をまもる銅矛^{ほこ}

大量に埋納された祭器としての銅矛から、北部九州のクニグニが倭人世界の境界と意識した対馬の性格を明らかにします。

第4部 壹岐のクニ

現在も発掘調査が進められている原の辻遺跡の出土品を中心に、姿を現しつつある弥生時代のクニの首都の様子と、そこででの生活を紹介します。

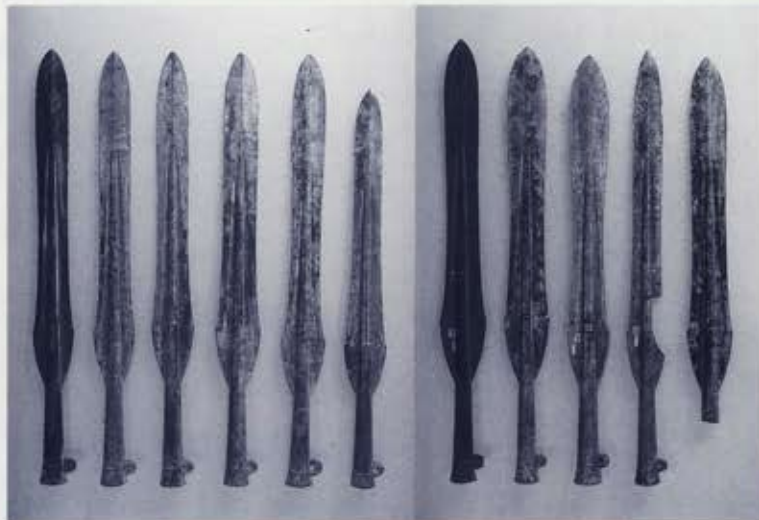
ごあいさつ

弥生時代の日本の様子を記した『魏志倭人伝』には、魏から邪馬台国への使いが最初に立ち寄る倭人の国として「対馬国」が、続いて「壹岐国」が登場します。

対馬海峡に浮かぶ壹岐・対馬の二つの島は、中国大陆や朝鮮半島と日本列島を結ぶ架け橋として、歴史上、常に重要な役割を果たしてきました。

弥生時代がはじまる頃には、朝鮮半島南部の農耕文化が対馬海峡を渡って日本列島に伝わりました。やがて、北部九州で弥生のクニグニが誕生してからは、中国・朝鮮半島との人・物・情報の往来が活発になり、交通路としての壹岐・対馬の重要性が増します。同時に、対馬に対しては、倭人社会の政治的な境界としての意識も芽生えてきたようです。

こうした、日本列島と朝鮮半島との間にあって、交流と緊張の場であった壹岐・対馬の弥生文化を探ろうというのが、今回の展示の目的です。対馬で出土する朝鮮半島製の青銅器や、壹岐・原の辻遺跡の最新の出土品を含めた多くの資料を出品します。



●一括して埋められた北部九州産の銅矛(対馬・大綱遺跡)



●占いに使ったイノシシ・シカの肩の骨
(壹岐・カラカミ遺跡)

主な展示物

- 動物をかたどった剣の飾り金具、馬につける鈴など朝鮮半島製の青銅器を含む、対馬・シゲノダン遺跡出土の重要文化財15点
- 対馬の大綱遺跡出土の埋納銅矛11点、「奴国」から運搬途中に博多湾に沈んだ唐泊沖の銅矛1点
- 楽浪郡の土器、戦国時代の銅剣、トンボ玉、占いに使った動物の骨など壹岐・原の辻遺跡、カラカミ遺跡の出土品
- 特別展示室中央に、原の辻遺跡で発見された板塀で囲まれた特別な祭殿を5分の1の縮尺ではじめて復原。
- 祭りの銅矛と柄に飾りのついた銅剣を青銅で復原、銅剣は「ふるるコーナー」に設置。

◆出品総数約250点を予定

▼祭壇

▼祭壇

▼米倉

▼板塀

●祭殿・祭壇と米倉
(壹岐・原の辻遺跡)
宮本長二郎氏原図

